

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引



人々の生活を豊かに。 イノベーションをドライブし続ける。

内田誠

日産自動車株式会社 取締役、代表執行役社長兼CEO

日産自動車は、事業、ガバナンス、また企業文化の面で大きな変革の時を迎え、同時に、自動車業界も、人々のライフスタイルや社会全体も急激に変化を遂げようとしています。日産はこの激動の時に、「他がやらぬことをやる」という創業以来のDNAを再認識し、さらにコーポレートパーパスを定義しました。日産が社会でどのような役割を担うのか、会社は何を目指していくのかを、社長兼CEOの内田誠が語りました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

社会に必要とされる会社に

Q.100年に一度の変革期と言われる中、新型コロナウイルス感染拡大による影響でさらに市場は大きく変貌していますが、この潮流変化をどのように捉え、日産としてどのように対応していくのでしょうか？

自動車業界は、大変革期を迎えています。さらに新型コロナウイルスの感染拡大は全世界のあらゆる業種、あらゆる人々の日常に大きな影響を与えています。また、SDGsによって注目されていた社会課題は、さらに鮮明に浮き彫りになり、企業に求められる役割や果たすべき社会への貢献は、大きな変化を迎えていると考えています。企業として利益を上げるのは当然ながら、これまで以上に社会との関わり、社会にどう貢献していくかが問われています。

日産は、10年にわたり手掛けてきた電気自動車や、クルマの安全性向上に寄与する先進運転支援技術を軸とし、地球規模での社会課題を見極め、これ

まで行ってきた研究開発や商品、技術、サービスのイノベーションをさらに進化させ、企業戦略、事業戦略として展開していくことが重要だと考えています。

日産は、長年にわたり「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げてきました。当社が社会に対してどのような意義を持つことができるのか、どのように社会に貢献していきたいのかを今般、改めて振り返り、コーポレートパーパス（存在意義）として再定義しました。

コーポレートパーパス（存在意義）

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

日産は、クルマに乗っているときも、乗っていないときも、人々の暮らしや社会のパートナーでありたい、クルマを超えて人々の生活を豊かに、と願っています。想像を超えたドライビング体験を提供するだけでなく、暮らしに寄りそったクリーンで安全なモビリティを提供し、社会に必要とされる会社でありたいと考えています。

この考えを具現化したモビリティが、2020年7月に発表した新型クロスオー

バーEV「日産アリア」で、電動化、先進運転支援技術、コネクティビティを融合した1台です。環境に配慮しただけではなく、誰もが安全で安心な旅を楽しむ「日産アリア」の発売は2021年中を予定しておりますので、それまでの間、「日産アリア」が提供する価値や電動化技術、さらにはモビリティを通して実現する新しい社会について、多くのお客さまにお伝えしていきます。

従業員の個の力を形に、『日産らしさ』を取り戻す

Q.2020年5月に事業構造改革計画「Nissan NEXT」を発表されましたが、計画の実践により、日産をどのような会社にしていきたいとお考えですか？

「Nissan NEXT」は再び業績を回復させ、会社の持続的な成長や価値創造の土台を築くための計画です。収益を確保しながら着実な成長を果たすこと、自社の強みに集中し、事業の質と財務基盤を強化すること、そして新しい時代の中で『日産らしさ』を取り戻すことが狙いです。一言でいえば、『日産らしさ』を発揮しながら成長の軌道に戻していく計画です。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

成長を支える柱である電動化は、現在、日本市場で25%の電動化率を2023年度までには60%に、中国では23%、欧州では50%を目指しています。さらに自動運転支援技術も拡大し、これら社会に貢献できるコア領域に力を注ぎます。「選択と集中」を徹底し、アライアンスパートナーのアセットを活用しながら、より効率的に事業を進め、着実な業績の回復を図っていきます。

これまでは販売台数の追求に重きが置かれていましたが、これからは事業規模拡大、販売台数拡大による成長ではなく、サステナブルな社会の実現に貢献していくなかで、企業として持続的成長を果たしていきたい。「人」を中心に据え、日産のDNAを発揮した「人」のためのモビリティや、技術、サービスを展開することで、人々の生活を豊かにし、社会の活力となる会社を目指していきます。

2019年度からは企業文化の改革も進めています。成長軌道へと進むためには、自社の強みや提供価値を理解するだけでなく、過去を反省し、課題となった部分を深掘りして対処していく必要があります。コーポレートガバナンスにおいては指名委員会等設置会社に移行し、独立社外取締役議長を配し、指名委員会、報酬委員会、監査委員会による監督機能を強化しています。しかし制度を変え、役員を一新するだけで全てが変わるわけではありません。ステップ・バイ・ステップで、順序を追って取り組んでいくことが重要と考えています。

また、日産には、15年ほど前に制定したグローバル従業員共通の価値観、行動指針「日産ウェイ」がありますが、その再定義も行いました。「Nissan NEXT」を実践し、『日産らしさ』を取り戻す源は、従業員にあるからです。過去に築かれた

文化を見直し、初心に帰りつつ新たにスタートしなければなりません。行動指針を全従業員が理解し、行動するようになるまで一定の時間が掛かりますが、従業員とコミュニケーションをとり、目指すべき方向性を共有し、動機づけを行っていくことが最も重要だと認識しています。

**THE POWER
COMES FROM INSIDE**

NISSAN WAY

- #1 ALWAYS THINK OF THE CUSTOMER**
お客さまのことを常に考える
- #2 SHOW FACTS, FACE REALITY**
事実を示し、現実を直視する
- #3 BE ACCOUNTABLE, ACT PROACTIVELY**
プロ意識を持って自発的に行動する
- #4 THINK OUTSIDE THE BOX**
既成概念にとらわれない
- #5 RESPECT OTHERS, RESPECT SOCIETY**
人に誠実に、社会に誠実に

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

「他がやらぬこと」で社会に貢献する

Q. 『日産らしさ』とは何でしょうか?どのように『日産らしさ』を発揮し、価値創造を行い、高めていくとお考えでしょうか?

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」これをどのように実現していくのか、そこに日産の価値があります。1933年の創業以来、「他がやらぬことをやる」という精神のもと、お客さまのための革新的な技術や商品を生み出すことに情熱を注ぎ、挑戦を続けてきました。それが日産のDNAであり、『日産らしさ』です。

2010年には、誰もなし得なかった電気自動車の量産を実現しました。CO₂排出量を削減し、気候変動を食い止めるには電気自動車は不可欠という強い信念のもと発売した「日産リーフ」は、累計販売台数が約49万台に達しています。電気自動車は電源としても活用できます。災害時には、従業員自らの発案により、停電で困っている被災地に日産リーフを「走る蓄電池」として届ける活動も行い、社会の新たなインフラとして活躍しています。また、「プロパイロット」を始めとする先進運転支援技術もいち早く実用化し、誰もが安心して楽しめるモビリティを提供しています。また、「e-POWER」は、ガソリン車でありながら、従来の駆動方式とは一線を画す新しい電動パワートレインで、CO₂排出量削減に寄与するとともに、優れた加速や静粛性を実現します。

このように、従業員は日産らしい挑戦を続けており、コーポレートパーパスを既に実践しています。



私はCEO就任以降、従業員との交流の中で個々のポテンシャルの高さを感じる多くの機会がありました。しっかりと社会課題を見据え問題意識を持ち、『日産らしさ』を力にモビリティを通じて社会に貢献していきたい、という従業員の姿に、私自身大変勇気づけられます。「日産はこんなものではない」と常々話す理由がここにあります。

日産は、2004年から参加している「国連グローバル・コンパクト」が掲げる普遍的な原則を引き続き遵守するとともに、これからも創業の精神を肝に銘じ、先進技術や商品のイノベーションを通じて、人々の生活を豊かにし、社会全体をより良い方向へ前進させ、元気にしていきたいと考えています。今後も従業員とともに日産ならではの挑戦を続けていきます。